

AOC Holdings, Inc. (TSE:5017)

---



# 2008年3月期決算説明会

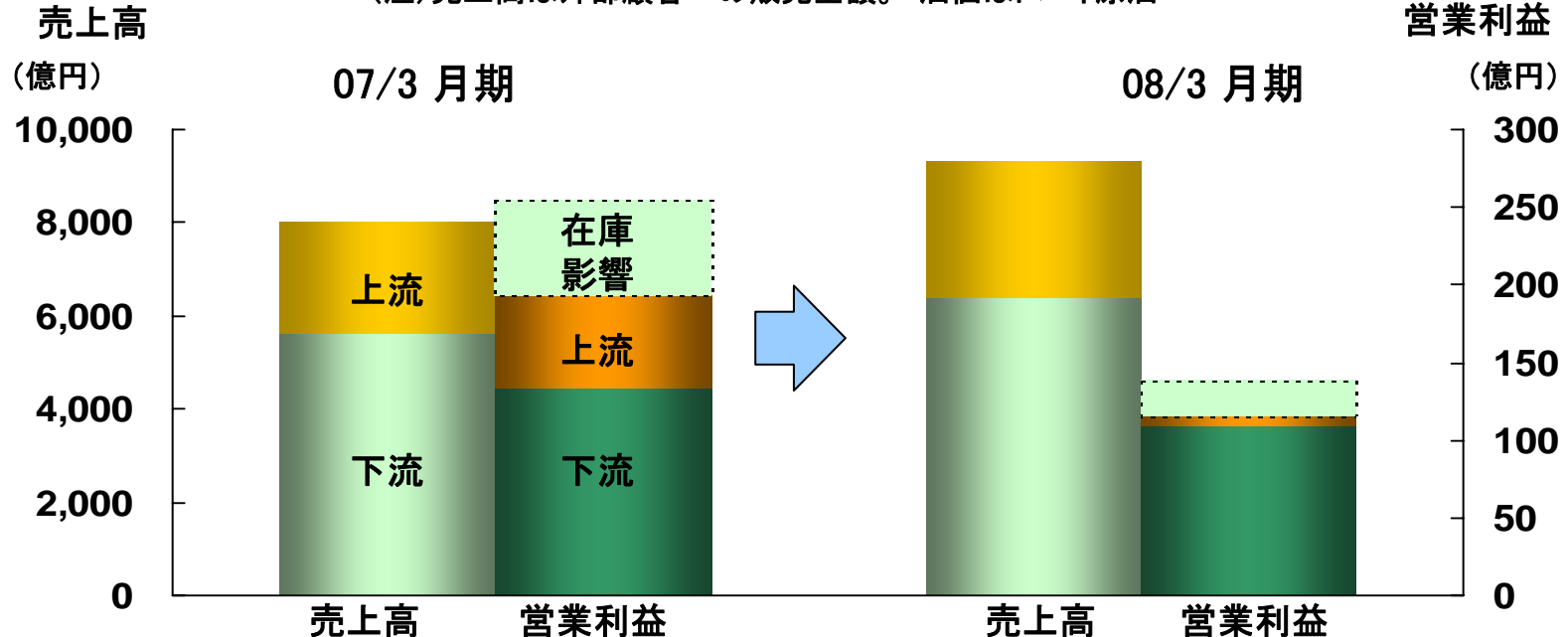
2008年5月16日

AOCホールディングス株式会社

# 08/3月期 連結決算の概要

(億円)	08/3月期 \$77.3/Bbl ¥114/\$			07/3月期 \$60.8/Bbl ¥117/\$			増減額 \$16.5/Bbl △¥3/\$		
	上流	下流	計	上流	下流	計	上流	下流	計 (増減率)
売上高	2,917	6,390	9,307	2,378	5,631	8,010	538	758	1,297 (16%)
営業利益 除在庫影響	6	133	139	59	196	256	△53	△63	△116 (△46%)
		109	115		134	194		△25	△79 (△40%)
経常利益	△16	131	115	63	210	274	△79	△79	△159 (△58%)
当期利益	△30	77	46	47	142	189	△78	△64	△143 (△75%)

(注)売上高は外部顧客への販売金額。油価はドバイ原油



# セグメント別売上高/営業利益

内部取引 消去後 (億円)	08/3月期			07/3月期			増 減		
	カフジ 関連	石油・ガス 開発/ 生産	石油 精製/ 販売	カフジ 関連	石油・ガス 開発/ 生産	石油 精製/ 販売	カフジ 関連	石油・ガス 開発/ 生産	石油 精製/ 販売
売上高	2,820	96	6,390	2,275	103	5,631	545	△6	758
営業利益	△7	13	134	△1	61	197	△5	△47	△63

## 売上高/営業利益増減分析

売上高/営業利益増減分析		増加要因	減少要因
売上高	カフジ関連	油価上昇 +30%	販売数量減少 △5% 円高
	石油・天然ガス/開発関連	販売価格の上昇 +12%	貯油施設のドライドック 生産量減退
	石油精製/販売	販売数量増 +2% 単価上昇 +18%	
営業利益	カフジ関連	原油販売条件の好転 +5億円	TSAの終了 △7億円 販管費の増加 △3億円
	石油・天然ガス/開発関連	販売価格の上昇	探鉱費 △24億円 貯油施設のドライドック、生産量減退
	石油精製/販売	燃料油マージン拡大 +33億円	在庫影響 △38億円(62→24億円) 化成品・ピッチマージン △62億円

# 営業外損益/特別損益の内訳

## 営業外損益明細

(百万円)	08/3月期	07/3月期	増減
営業外収益	6,282	8,323	△2,041
受取利息・配当金	4,480	3,129	1,351
持分法投資利益	583	1,863	△1,280
為替差益	431	2,607	△2,176
その他	787	721	66
営業外費用	8,693	6,490	2,203
支払利息	7,675	5,770	1,905
その他	1,018	719	299

## 特別損益明細

(百万円)	08/3月期	07/3月期	増減
特別利益	267	86	181
旧利権協定関係清算益	267	0	267
その他	0	86	△86
特別損失	3,409	330	3,079
貸付関連費用引当金繰入額	2,697	0	2,697
固定資産除却損	699	301	398
その他	12	29	△17

# 原油販売量/販売価格

	販売量(千バレル/日)			販売価格(\$/バレル)	
	08/3月期	07/3月期	増減率(%)	08/3月期	07/3月期
クウェイトとの売買契約による購入原油	94.8	100.2	△5.3		
カフジ原油	89.8	95.2	△5.6	72.65	55.73
フート原油	5.0	5.0	0	77.87	60.75
権益原油	3.0	3.7	△18.9		
南海ミディアム原油 (中国南シナ海)	*2.5	*3.1	△19.3	*71.84	*63.78
エコフィスク原油 (ノルウェー領北海)	*0.5	*0.6	△16.6	*72.20	*65.25
合計	97.8	103.9	△5.8	—	—

\* 1-12月

(注) 南海ミディアム原油は貯蔵・出荷施設の定期検査により2ヶ月間生産停止

# 石油製品販売量

(千KL)

	08/3月期	07/3月期	増減率(%)
揮発油	1,781	1,887	△5.6
ナフサ	470	489	△3.7
ジェット	1,294	1,246	3.9
灯油	311	340	△8.5
軽油	1,481	1,395	6.2
A重油	228	333	△31.5
C重油 (内電力向け)	1,402 ( 1,119)	906 (617)	54.7 (81.3)
ベンゼン	150	153	△1.7
キシレン	308	310	△0.6
その他	563	556	1.1
小計	7,992	7,619	4.9
ジョイント・バーター	917	1,119	△18.0
合計	8,910	8,738	2.0
内、輸出量 (除バンカー)	398	132	201.5
原油処理量	7,787	7,539	3.2

# 連結貸借対照表の主な増減項目

	08/3月末	07/3月末	増減額	主な増減要因 (億円)
流動資産	2,537	2,057	480	棚卸資産 +254 売掛金 +93
固定資産	1,981	1,797	184	
有形固定資産	1,187	1,050	136	建設仮勘定 +133
投資その他の資産	780	729	51	KGOC貸付等 +59
資産 合計	4,518	3,854	664	
流動負債	2,115	1,514	601	油価上昇に伴う運転資金増 +388 買掛金 +162
固定負債	951	906	44	長期借入金純増 +25 貸付関連引当 +18
負債 合計	3,067	2,421	645	
純資産 合計	1,451	1,432	18	当期利益 +46 配当 △11 評価換算差額等 △14
負債純資産 合計	4,518	3,854	664	

KGOC(Kuwait Gulf Oil Company) : クウェイトとの技術サービス契約および融資契約の相手先

自己資本比率 32%    DEレシオ 0.8 (除 KGOC貸付見合いの借入)

# 連結キャッシュフローの状況

(億円)

	08/3月期	07/3月期	08/3月期説明	
営業活動によるCF	△40	179	税前利益	+84
			仕入れ債務の増加	+162
			減価償却費	+62
			棚卸資産増加	△254
			法人税支払	△64
投資活動によるCF	△374	△524	有形固定資産取得	△167
			KGOC貸付等	△260
財務活動によるCF	493	291	短借純増	+388
			長借純増	+121
			配当	△11
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17	1		
現金及び現金同等物の増減	60	△52		
現金及び現金同等物の期首残高	257	310		
非連結子会社合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	-		
現金及び現金同等物の期末残高	318	257		



# 09/3月期 事業環境・事業計画の概要

## ▶ 事業環境

- ・ 原油価格は堅調な需要と産油国の地政学リスクおよび投機資金の活発な流入を背景に高値圏で推移
- ・ 原油重軽格差は拡大したままで推移
- ・ 国内燃料油需要は引き続き減退(電力向けC重油の需要は堅調)
- ・ 石油製品/化成品のマージンは厳しい

## ▶ 事業計画

### 上流事業

- ・ 開発・生産案件の発掘を基軸とする新たな事業基盤の確立と収益力の強化
- ・ 既存生産油田の最適操業維持
- ・ 原油販売計画: 102千バレル/日

### 下流事業

- ・ 袖ヶ浦製油所の高稼働操業の維持
- ・ 石油製品販売計画: 8,697千KL
- ・ 第2流動接触分解装置(FCC)の竣工・稼働開始
- ・ ユリカ装置増強/水素製造装置新設/ガソリン輸出設備増強に着手

### 見通しの前提(通期)

- ◆ 原油価格: ドバイ原油  
..... \$80/bbl
- ◆ 重軽格差 AL-AH: \$6.5/bbl
- ◆ 為替レート: 105円/\$

# 09/3月期 通期原油・石油製品販売量

原油 (千B/D)	09/3期(計画)	08/3期	増減率(%)
カフジ原油(売買契約)	95.0	89.8	5.7
フート原油(売買契約)	5.0	5.0	0
南海ミディアム原油(権益原油)	2.2	2.5	△12.0
エコフィスク原油(権益原油)	0.6	0.5	20.0
原油計	102.8	97.8	5.1

(注) 南海ミディアム原油は貯蔵・出荷施設の定期検査により2ヶ月間生産停止

揮発油	2,134	1,781	19.8
ナフサ	216	470	△54.0
中間留分	3,269	3,314	△1.3
C重油 (内電力向け)	1,651 (1,435)	1,402 (1,119)	17.8 (28.1)
ベンゼン・キシレン	505	458	10.2
その他	814	563	44.5
小計	8,593	7,992	7.5
ジョイント・バーター	104	917	△88.7
石油製品計	8,697	8,910	△2.3
内、輸出量(除バンカー)	506	398	27.1
原油処理量	7,860	7,787	0.9

# 09/3月期 通期連結業績見通し

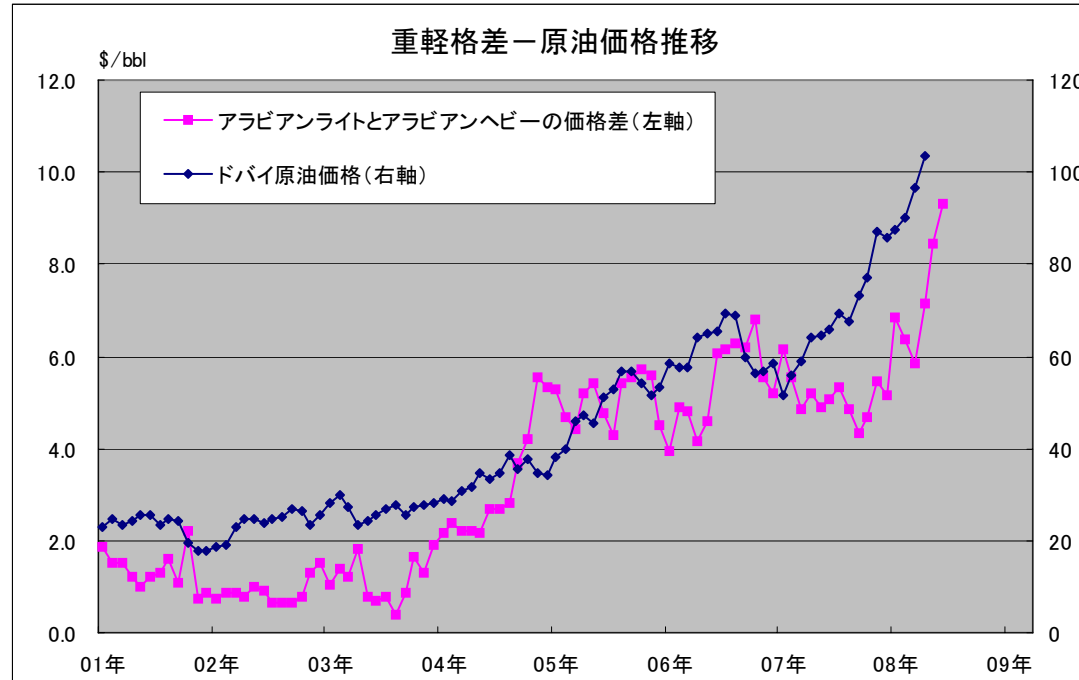
単位:億円

	09/3月期 見通し \$80.0/Bbl ¥105/\$			08/3月期 実績 \$77.3/Bbl ¥114/\$			増減額 +\$2.7/Bbl △¥9/\$		
	上流	下流	計	上流	下流	計	上流	下流	計 (増減率)
売上高	2,940	6,360	9,300	2,917	6,390	9,307	23	△30	△7(△0%)
営業利益 除在庫影響	16	139	155	6	133	139	9	5	15(11%)
		130	146		108	115		21	31(27%)
経常利益	21	144	165	△16	131	115	37	12	49(43%)
当期利益	9	86	95	△30	77	46	39	8	48(104%)

営業利益の増減要因	上流	下流
増加要因	原油価格の上昇 探鉱費 +24億円(前期は発生)	石油ピッチの単価上昇 +65億円
減少要因	TSAの終了 △10億円 販管費の増 △7億円 新華南生産減退 △2億円	化成品のマージン縮小 △28億円 石油製品のマージン縮小 △14億円 在庫影響 △16億円(24→8億円)

(注) 売上高は外部顧客への販売金額。油価はドバイ原油。

# 補足資料



## 原油価格・為替変動の営業利益への影響額(年間)

		上流	下流	計
原油価格 \$1/バレル上昇に付き		0.5億円	1.5億円	2.0億円
	在庫評価への影響	プラス	3.5億円	4.0億円
	石油ピッチの収益悪化	マイナス	△2.0億円	△2.0億円
為替 ¥1/\$円安に付き		プラス	2.5億円	3.0億円

(注) 下流は在庫評価に対する影響のみ、石油ピッチ以外の石油製品価格は原油価格に連動するものとしている。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

**お問合せ先：**  
**IR・広報部 菊池、粕谷**